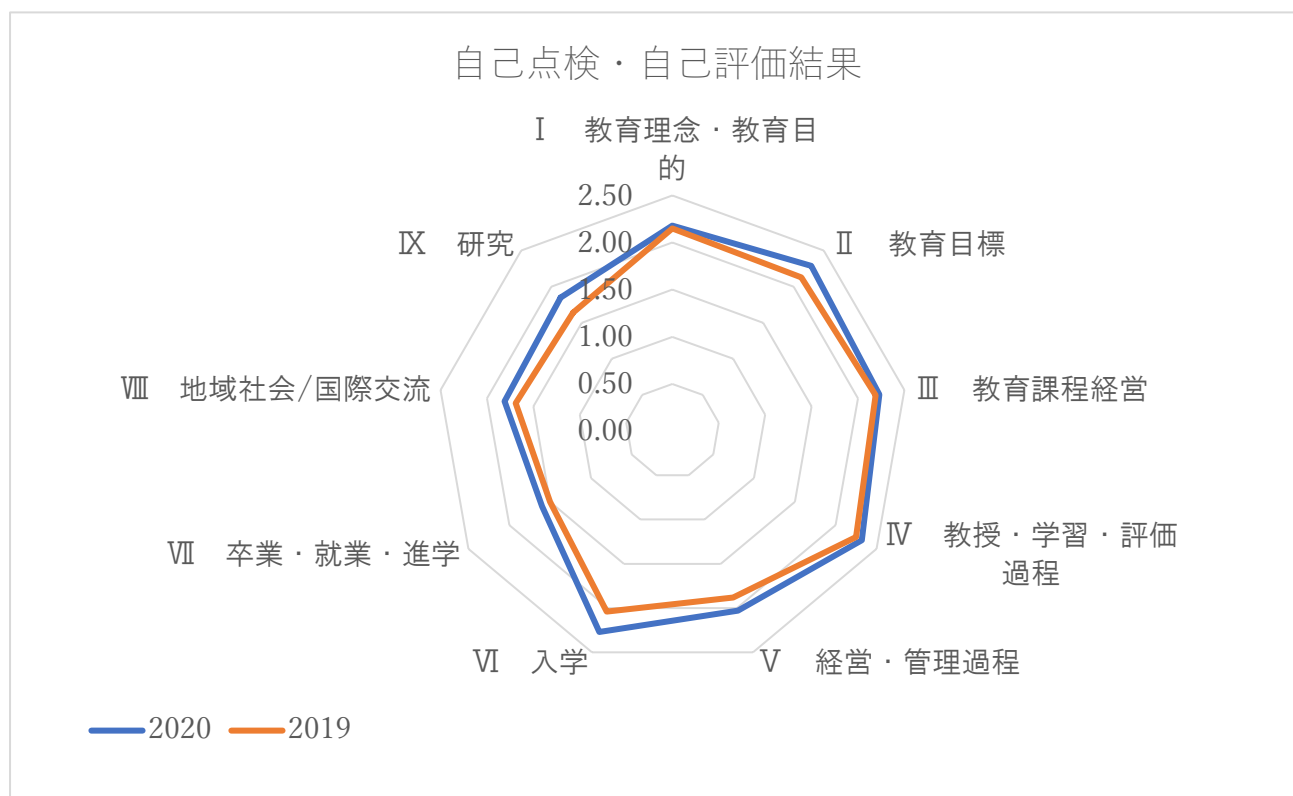


2020年度 自己点検・自己評価結果

評価は、「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」に基づき評価した。

1. I～IXの категорияとその評価項目(121項目)を、3段階評価(3:当てはまる、2:やや当てはまる、1:当てはまらない)とし評価した。
2. 評価点は評価者が3段階で評価した平均値とした。

カテゴリー	評価点 ()は2019年度
I 教育理念	2.18 (2.15)
II 教育目標	2.29 (2.13)
III 教育課程経営	2.23 (2.13)
IV 授業・学習・評価	2.31 (2.25)
V 経営・管理	2.03 (1.88)
VI 入学	2.27 (2.04)
VII 卒業・就業・進学	1.60 (1.50)
VIII 地域社会	1.81 (1.69)
IX 研究	1.85 (1.64)



総括と課題および学校関係者評価

I 教育理念・教育目的

昨年度より 0.03 ポイント上昇した。カリキュラム改正に向けて教育課程を確認し、内容の共通理解が図れたことが影響していると考えられる。しかし、現行のカリキュラムに加筆はしていない。

卒業前に、基本理念である 3 つの L について学生の理解している状況を確認した。意図したことは学生に伝わっており、学生自身の言葉で説明できるまで理解できていた。

<課題>

- ・教育理念・教育目的は、教職員で共通理解ができるように毎年確認する体制をつくる。
- ・教育理念・教育目的の理解を得るために、学生及び財団に向けて教育理念・教育目的を発信する機会をつくる。

<学校関係者評価>

- ・教育理念は守るものではなく、時代に合わせて進化させることが必要である。3L の単語の羅列におわらないように、真の意味を理解させて看護教育に取り組んでほしい。
- ・2020 年度のカリキュラム改正に向けて教職員が教育課程を確認し、実施していることが共通理解につながっていると感じている。

II 教育目標

昨年度より 0.16 ポイント上昇した。教育理念・教育目的同様、内容の共通理解が図れたためと考えられる。

<課題>

- ・社会の動向や医療に対するニーズを反映し、文言から内容が理解できる表現で教育目標を設定する。

<学校関係者評価>

- ・教育目標や到達目標を明確にして、学生が理解して実践できるよう指導してほしい。
- ・卒業後の継続教育の考え方は、臨床実習施設からの非常勤講師からも講義中に伝える必要がある。

III 教育課程運営

昨年度より 0.1 ポイント上昇した。カリキュラム改正に伴うカリキュラム編成の途中である。新カリキュラムに対応するために科目・単元構成、教育計画等を設定している。

「教員の教育・研究活動の充実」は、今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、講義・実習の変更に対応するために自己研鑽等に十分な時間をとることができなかった。オンライン授業や制限のある中での技術教育など、教育方法の工夫においては検討を重ねて対応したことで、教員の教育力の成長につながったと評価できる。

「学生の看護実践体験の保障」は、臨地実習の方法を学内と臨地で行うよう変更し、全領域の実習が臨地で経験できるように再設定した。臨床指導者に学内実習を参観してもらう機会を設定し、臨床での実習にスムーズに移行できるように学生の状況を理解してもらう試みを行い、臨床との連携を図った。学生への感染対策・安全教育は臨床の協力を得て実施できた。

<課題>

- ・新カリキュラムでは、アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを明確に設定し科目の設定に反映させる。

- ・教員自身の自己研鑽や授業研究の時間がとれるように体制を整える。
- ・実習施設は設置主体の病院である強みを活かし、臨床指導者と連携して教育するために毎月の連絡会議、年2回の合同連絡会議を継続する。
- ・今年度、実習方法を変更したことの評価のため、卒後の追跡調査を行い、変更した実習方法の評価を行う。
- ・多様な教育方法を取り入れるため、コスト面で財団への説明・要求を行う。
- ・教育の充実のために指導ガイドラインにある、実習指導教員の導入を検討する。

<学校関係者評価>

- ・カリキュラム改正のポイントに沿って、新カリキュラムを策定してほしい。
- ・コロナ禍において学校と臨床実習施設で検討し、学生にとって最善と考えられる方法を工夫して実施できたと思う。行政からの助成金を活用し、iPadの購入、活用など、感染対策をとり、安全に十分留意して実施できた。

IV 授業・学習・評価過程

昨年度より0.06ポイント上昇した。新型コロナウイルス感染症の流行に伴う講義・演習・実習の方法の変更があり、学生に不利益がないように、かつ到達目標は変更することなく学習の到達レベルは確保した。方法の変更に伴い評価方法も多様な方法で実施した。シラバスの内容の整備には至っておらず、各担当の講師により提示方法が様々だった。

<課題>

- ・教育内容の重複を避け、学習内容が明確になるようにシラバスを見直す。
- ・授業の展開方法に関しては、教員間で、アクティブラーニングを取り入れながら目標達成のための教授方法を検討し実施する。
- ・本校の教育のねらいを理解して教授するために、科目の設定理由を明確にし、講師に説明するとともに、学生にもわかりやすい教育課程の編成を行う。

<学校関係者評価>

- ・新型コロナウイルス感染症の流行に伴う授業の形態を模索して対応した。臨地実習の不足をどのように補うのか、昨年度の経験を今年度に活かしてほしい。
- ・コロナ禍において、講師と連携し、感染対策をとり、講師の要望も取り入れ、学生に不利益がないよう教職員が努力していた。
- ・臨地実習の短縮に伴い、病棟毎にオリエンテーションのVTRを作成したことは、事前に学内で見ることでイメージしやすく、病棟でのオリエンテーション時間が短縮された。また、繰り返し見ることができ効果的であったと思われる。さらに必要な動画作成をするなどICTの有効活用が課題である。

V 経営・管理過程

昨年度より0.15ポイント上昇した。「組織体制」の意思決定システムが不明確である。「財政基盤」は教職員への周知が図れたため評価が上がった。「施設設備の整備」は、感染対策として各階にひと学年が活動するように使用する教室を設定し、都度対応できている。「学生生活の支援」では、webポータル連絡体制を整え、国家試験問題を配信し、学生の学習を支援した。「養成所に関する情報提供」として、保護者にwebポータルを活用して学校生活について年7回配信し情報提供を行った。Webポータルは、学生にとっても情報の管理を学べる機会にもなっている。「自己点検・自己評価体制」は教職員で評価し、学校関係者評価のシステムを構築した。

自己点検・自己評価の結果からの課題と本校で挙げた重点目標の設定時期がずれており、結果の活用には不十分だった。

<課題>

- ・新カリキュラムの内容に対応するために、計画的に施設設備を整える。
- ・校務分掌を作成し、組織体制を明確にする。
- ・自己点検・自己評価の結果を活用し、目標設定を行う。

<学校関係者評価>

・組織体制の意思決定システムが不明確という自己評価、自己点検・自己評価からの結果の活用が不十分であるという自己評価であり、評価点数が上昇するのは自己評価が甘いのではないかと危惧する。自己評価に満足せずに新たな課題を見つけて改善してほしい。

VI 入学

昨年度より 0.23 ポイント上昇した。推薦入学の基準はあり入学後に分析している。基準は試験委員は知っているが、全教員の周知には至っていない。

<課題>

- ・入学時の要件を明確にするためにアドミッションポリシーを設定する。
- ・入試の基準等、全職員で共通理解ができるように場をつくる。

<学校関係者評価>

・毎年、入学者状況、推移、選考方法や妥当性は丁寧に説明されており、試験委員と運営委員は理解している。また、分析もされており、次年度計画に活用されている。

・一人でも多く、地元の学生が大原看護専門学校を希望するように、ホームページでアピールすることが必要と考える。

VII 卒業・就業・進学

昨年度より 0.1 ポイント上昇した。看護師国家試験は 2 名が不合格だった。卒後の活動状況と就職先での評価を把握するため、就職先にアンケート調査を実施した。

<課題>

- ・本年度初めて実施した就職先へのアンケートを継続し、アンケート結果から対策を講じ本校の教育に活かす。
- ・卒業時の到達状況を評価する方法と内容を明確にする。
- ・卒業時の到達状況を明確にするために、ディプロマポリシーを設定する。
- ・卒業生の活動状況を把握するために追跡調査を実施する。

<学校関係者評価>

・国家試験の合格に向けての取り組みは評価できる。就職先からの評価を学生教育に反映させるような仕組みを作ってほしい。

・卒業生の就職先へのアンケート調査の結果、分析が教育現場に活かされることを期待する。臨床場へのフィードバックも期待する。

VIII 地域社会／国際交流

昨年度より 0.12 ポイント上昇した。地域のニーズを把握するために、本校の近隣の小・中・高校、開業医、公共施設等 50 件にアンケート調査を実施した。地域の感じている現状と本校へのニーズを把握することができたが、今年度の授業に反映はできなかった。地域への情報発信として例年オープンキャンパスを実施しているが、本年度は個別対応とした。ホームページは随時更新し、情報の発信に努めている。国際交流は本年度も JICA の活動を学ぶよう設定しているが、昨年度と同様の取り組みに留まっている。

<課題>

- ・地域のニーズを把握する体制を構築したため、継続して取り組む。把握したニーズを新カリキュラムに反映するように検討する。
- ・本校の知名度を上げるため、ホームページの活用やオープンキャンパス等を活用し積極的に情報を発信する。
- ・国際的視野を広めるために学校祭等で国際の企画を取り入れる。

<学校関係者評価>

- ・昨年度は、コロナ感染症流行で地域社会との交流が以前より十分に行えなかったと思われる。また、以前からの課題である国際交流については、言語学習の観点からも他国の人々との交わる機会を持ち、視野を広げられるような企画をお願いしたい。
- ・アンケートの結果から、看護学校へ期待していること等を財団へフィードバックすることを期待する。在宅看護を通し、地域社会のニーズが学べる機会が増えることを期待する。

IX 研究

昨年度と同様の結果だった。研究に取り組むことはできなかったが、弾力的に講義・実習を行うために研究論文を活用しながら取り組むことができた。

<課題>

- ・教員の教育力と教育の質の向上のために、積極的に研究に取り組める体制を整える。

<学校関係者評価>

- ・看護教育に関する研究活動に取り組む必要がある。研究することで、新しい視点が導入され、教育の質向上につながることを期待している。
- ・財団だけでなく、大学等を含め、研究活動を支援している教育場もあるため、活用して教員の質向上に努めてほしい。